

## 告 辞

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程を修了し、晴れて博士号を授与される皆さん、おめでとうございます。本学教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。本年は無事にこうして式典を執り行うことができ、安堵と感謝の念を抱いております。そして、本日の学位取得はもちろん皆さんの努力の賜物ですが、努力を続けることができたのは自分一人の力ではありません。皆さんが学業に励んできた間、皆さんを支えて下さったご家族、ご友人、関係者の皆様に対する感謝の気持ちを忘れないでください。我々教職員一同も心より御礼を申し上げ、この晴れの日の喜びを分かち合わせていたきたいと思えます。

本日博士号を授与されるのは、生物生産学専攻一名、生物工学専攻一名、生物生産科学専攻十五名、応用生命科学専攻七名、環境資源共生科学専攻十名、農林共生社会科学専攻七名の課程博士四十一名、論文博士五名の計四十六名です。課程博士の中には、十二名の外国人留学生が含まれております。出身国は七カ国になります。

皆さんがここで過ごしてきた年月は、大変厳しい研鑽の日々であったかと思えます。様々な挫折や失敗に苦しみ、すべてを投げ出したくなったこともあったでしょう。しかし、それらを乗り越え無事修了したことに、まずは自信を持ってください。そして同時に、大学院博士課程という最高学府でその学位を得た者として、皆さんはこれから多大な責任と期待をその双肩に背負うことを自覚しなければなりません。言うまでもなく、現在の地球は様々な難問を抱えています。環境問題・資源及びエネルギー問題・人口及び食糧問題、全て地球上の生物の存続に係わる危機的課題であり、これらを解決し、持続発展可能な社会を創るためには、新たな知の創造、つまりイノベーションが必要不可

欠です。加えて、我が国には昨年の震災からの復興という喫緊の課題もあります。こうした諸問題への対応には、我々科学者が積極的に携わっていく、というよりむしろ先導していかなくてはなりません。イノベーションを推進する科学技術の力が何よりも重要となるのです。殊に農学分野は、環境・資源・食糧のいずれの側面から見ても、人類の存続に最も直接的に係わる学問分野と言えます。この連合農学研究科は、茨城大学及び宇都宮大学と、大学という枠組みを超えて連携し、各々の研究の特性を活かし、また補いつつ、更に洗練されたより有用な最前線の農学研究へと発展させるために創設されました。皆さんは、本日の学位授与を境に、人類の共存と福祉に寄与すべき科学者の仲間入りをします。このような特性を持った大学院で身に付けた知、経験、人間的成長、社会に貢献しうるグローバルな人材になるための基盤となる力に揺るぎない誇りを持って下さい。そしてここで感じた、研究、つまり真理を追究すること、の喜びを忘れないで下さい。それらは必ず皆さんの人生の支えとなります。そしてこれからは更に自己研鑽を重ね、その基盤や思いを自分の手でより深く豊かに広げ、国内のみならず国際社会においても実践的に人類に貢献することを求められます。大学、研究所、企業等、進路は様々ですが、求められることはどこでも同じです。皆さんの行く手には多くの試練が待ち受けています。大学院での生活において体験するものとは比べ物にならないようなことも多々あります。しかし、自分を信じ、美しい地球と人類の健やかな共存という未来のため、思う存分持てる力を発揮して下さい。そして今後、逆境の中で進むべき方向を見失うようなことがあっても、学問・研究の道に足を踏み入れた者として、真理の追究に対する情熱を、暗闇を照らす灯にし、勇気を取り戻して前進を続け、我々科学者の真の仲間となって欲しいと願っています。

最後に、この万葉の歌に我々の気持ちを重ね、皆さんに贈りたいと思います。

熱田津に 船乗りせむと月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな

良く知られた歌ですから、詳しい説明は必要ないでしょう。暗い海に漕ぎ出す人々の思いと彼らの士気を鼓舞する者の思いが融合し高まる情景が目には浮かぶ、力強い歌です。皆さんが今から漕ぎ出だすのは社会の荒波です。彼らが大和の民の期待を背負って旅立ったように、皆さんも今、大きな使命を担って新たな一步を踏み出そうとしています。我々が、そしてこの社会が皆さんを応援する気持ちは、万葉の時代に劣ることはありません。時は満ち、機は熟しました。一人の研究者として我が国及び国際社会に益するために、大海の荒波を恐れず、新しい世界へ漕ぎ出して下さい。次に皆さんにお会いする時には、さらに成長した頼もしい姿を見ることができると信じています。本学も、皆さんの母校として誇れる心強い基柱となるよう、より良い大学づくりへの舵取りに柔軟かつ積極的に挑戦してまいります。皆さんのご健闘・ご活躍を心より祈っております。

本日は、誠におめでとうございます。

平成二十四年三月十五日

東京農工大学長 松永 是